

# 宗教改革以降の聖書の解釈の歴史について知りたい。教義神学と聖書神学が大きなふたつでしょうか？

宗教改革以降の聖書の解釈の歴史は、キリスト教思想や神学の展開に大きな影響を与えました。この時期以降、聖書解釈は多様化し、特に「教義神学」と「聖書神学」という二つの主要なアプローチが注目されるようになりました。それぞれのアプローチを含む聖書解釈の流れについて簡単に説明します。

## 1. 教義神学（体系神学）

教義神学（ドグマティクス、体系神学）は、キリスト教の教義を体系的に整理し、組織的に理解することを目指します。このアプローチは、宗教改革以前から発展してきましたが、宗教改革以降、特にプロテスタント神学において重要な役割を果たしました。

- **宗教改革と教義神学**：宗教改革者であるルターやカルヴァンは、教会の伝統や権威を批判し、聖書そのものに立ち返ることを強調しました。彼らは「聖書のみ（Sola Scriptura）」という原則を掲げ、聖書の権威を最も重要視しました。教義神学の伝統の中では、聖書はキリスト教教義の基礎となる神の啓示として扱われ、その内容を統一的、論理的に説明しようとする試みが行われました。
- **特徴**：教義神学は、特定のテーマ（例えば神の本性、キリストの贖罪、人間の罪）に焦点を当て、それを聖書全体の文脈の中で体系的に解釈します。この方法では、歴史的背景や文脈に加えて、神学的な一貫性や教会の伝統的な教えも考慮されます。

## 2. 聖書神学

聖書神学は、聖書の個々の書簡や文書が書かれた文脈と歴史に基づいて、それぞれの神学的なメッセージを理解しようとするアプローチです。教義神学とは異なり、聖書全体を一つの体系的な教えにまとめることを必ずしも目指すわけではありません。

- **宗教改革以降の発展**：聖書神学のアプローチは、特に啓蒙時代以降、歴史的批評学の発展とともに発展しました。この時期に、聖書の各書簡や部分が異なる歴史的・文化的背景を持っていることが強調され、その背景を理解することが聖書の正しい解釈に不可欠であると考えられるようになりました。
- **特徴**：聖書神学は、特に聖書の各部分がどのように神を理解し、どのように救いを語っているかを、個々の文脈で探求します。たとえば、旧約聖書のモーセ五書と新約聖書の福音書では、それぞれ異なる神学的な視点があることを重視します。これにより、歴史的状況や文化的影響が解釈において強調されることがあります。

## 3. 宗教改革以降の聖書解釈の他の流れ

宗教改革以降の聖書解釈の歴史には、他にもさまざまな影響を与えた流れが存在します。

- **歴史的批評学**：17世紀から19世紀にかけて、聖書解釈において歴史的批評学が台頭しました。これは、聖書の文書がどのように書かれたか、その作者や編纂過程に焦点を当てた学問的なアプローチであり、特にドイツの神学者たちによって発展しました。このアプローチは、聖書を人間の歴史の産物として理解することに重点を置きました。

- **近代プロテスタント神学の発展**：20世紀には、カール・バルトやルドルフ・ブルトマンなどの神学者による新しい聖書解釈が登場しました。バルトは「啓示」を強調し、聖書は神の言葉として直接的な啓示であると主張しました。ブルトマンは「非神話化」というアプローチを提唱し、聖書の神話的要素を現代的な視点で再解釈する必要性を訴えました。

## まとめ

宗教改革以降の聖書解釈の歴史は、教義神学と聖書神学という二つの主要なアプローチに大きく分かれます。教義神学は、聖書を体系的に理解し、キリスト教の教義を統一的に解釈しようとします。一方、聖書神学は、聖書の各部分が持つ独自の神学的メッセージをその歴史的・文化的文脈に即して解釈することに重点を置いています。この両者は、現在でも神学や聖書解釈の主要なアプローチとして存在しています。

## 教義神学は、なんらかの問題に答える必要から出てくる課題を、聖書の様々な箇所を、教理のかたちにまとめる神学。聖書神学は、聖書の編集意義を、歴史的文学的に解明しようとする神学、と言えますか？

はい、その説明は非常に的確です。以下のように整理することができます。

### 1. 教義神学（体系神学）

- **目的**: 教義神学は、キリスト教の教義に関する問いや課題に答えるため、聖書全体の教えを一貫した体系としてまとめ上げようとする神学です。特定の神学的テーマ（例: 神の本質、救い、罪、人間の役割）について、聖書の様々な箇所から関連するテキストを集め、それらを統合し、一つの体系的な教理にまとめ上げます。
- **アプローチ**: 聖書の中で一貫した神学的なテーマを探り、それを教理として論理的に展開します。神学的な問いに対する解答を提供するため、時には聖書の全体像や教会の伝統を参照しながら、個々の聖句の意味をより広い文脈で解釈します。

例: 「三位一体」についての教義は、聖書の各書（旧約・新約を含む）から神の性質に関する記述を集め、神が三つの人格を持つ一つの存在であるとする教理を形成します。

### 2. 聖書神学

- **目的**: 聖書神学は、聖書の各文書や部分が書かれた歴史的・文化的背景を重視し、それぞれの文脈での神学的意義やメッセージを解明することを目指します。聖書の書物が編纂された意図や、著者の神学的観点を明らかにすることに焦点を当てています。
- **アプローチ**: 聖書を「歴史的・文学的」な文脈で読み解きます。これは、例えば旧約聖書における神の啓示と、新約聖書におけるキリストの啓示がどのように展開し、それが歴史的な文脈の中でどのように理解されたかを探ることを意味します。また、著者や編纂者がどのように神の救済計画を描写したかを明らかにしようとしています。

例: 創世記から黙示録までの「契約」というテーマに注目し、それが異なる歴史的状況や著者の意図の中でどのように発展したかを探ることで、聖書全体の神学的なストーリーを理解する試みです。

## 比較と特徴の整理

- **教義神学**は、現代や歴史的な問題に答えるため、聖書の教えを体系的にまとめ、教理として提示します。個々の聖書箇所を全体の教義に合わせて統合するアプローチです。
- **聖書神学**は、各聖書の文書や部分が書かれた背景や文脈を重視し、その時代や状況における神学的メッセージを探ります。聖書全体を通じた神学的な発展を歴史的に分析するアプローチです。

このように、両者の違いはその目的とアプローチにあります。どちらも聖書の深い理解を目指す重要な神学的アプローチです。

**教義神学は、元の問題が歴史とともに変化してきて、現代への適用の重要性も解決教理の変化します。聖書神学は、本文の背景や文脈を重視するがゆえに、現代への適用において解釈がむずかしくなります。**

おっしゃる通り、教義神学と聖書神学には、それぞれ現代への適用に対するアプローチや難しさがあります。以下のように整理できます。

### 1. 教義神学の現代への適用

- **問題の変化と教理の更新:** 教義神学は、現実の問題に対応するために聖書の教えを体系化するので、歴史的な変化や新たな状況に直面する中で、教理自体もその問題に応じて変化します。時代ごとの倫理的、社会的、文化的な問いに対して、聖書の教えを再解釈し、現代の信徒にとって適切な形で教理を提示することが求められます。
- **現代的課題への適用:** 現代の問題に対して、たとえば環境問題やジェンダーの問題など、聖書に明確な教えが直接書かれていないこともあります。そのような場合、教義神学は、聖書の全体像や神学的原則を元に、現代の状況に適用可能な教理を形成しようとします。これにより、教義神学は常に動的であり、時代に応じた解決策を提供しようとします。

**例:** 聖書の中で直接扱われていない現代的な倫理問題（例えば、AI技術や生命倫理など）に対して、教義神学は聖書の基本的な倫理的原則を探し、現代の文脈に応じた解答を導き出すことが試みられます。

### 2. 聖書神学の現代への適用の難しさ

- **文脈への忠実さと適用の難しさ:** 聖書神学は、特定の時代や文化的文脈における聖書の記述をそのまま重視するため、現代への直接的な適用が難しい場合があります。聖書が記された時代の歴史的・文化的な背景に対する理解が深まれば深まるほど、現代の状況とは異なる価値観や社会構造が浮かび上がることがあり、それをどう適用するかが課題となります。
- **普遍的メッセージの見出し方:** 聖書神学では、各テキストが書かれた背景や目的が異なるため、現代に適用する際に、その背後にある普遍的な神学的メッセージを見出す必要があります。しかし、その過程で、どのように適用するかに関する解釈の幅が広がり、異なる解釈が生じることがあります。

例: 旧約聖書の律法は、古代イスラエルの社会制度や宗教儀式に密接に結びついています。そのため、それをそのまま現代社会に適用することは困難です。現代においてどのように適用すべきかを考える際、背景や文脈を考慮した解釈が必要となり、しばしば異なる見解が生じます。

## 両者の適用におけるバランス

- **教義神学の強み:** 教義神学は、現代の課題に対して積極的に聖書の教えを適用し、教理を形成しようとするため、変化する社会状況に応じた神学的な解答を提供しやすいという強みがあります。しかし、その過程で、聖書の原意から離れすぎる危険性も伴います。
- **聖書神学の強み:** 聖書神学は、聖書の文脈や著者の意図に忠実であるため、聖書そのものを正確に理解する上で重要です。ただし、その歴史的背景を尊重するがゆえに、現代の具体的な課題に対して即座に適用することが難しい場合があります。

両者をバランスよく用いることが、現代のキリスト教信仰においては重要とされます。教義神学は時代に合わせた適用を容易にしますが、聖書神学はその適用が聖書の原意から離れないようにするための指針を提供します。この二つの神学は補完的に機能し、聖書の教えを深く理解しながら、現代の課題に適用する道を模索することが可能になります。